

1 はじめに

本校は各学年単学級という小規模校である。少人数であるが故に、どうしても学校行事等において盛り上がり欠ける部分があり、それを教員も生徒も課題と捉えていた。しかし、この状況をむしろ強みに変えることはできないかと生徒会で話し合った結果、活動の中で先輩後輩関係なく仲良くなり、みんなで協力することができる、という強みを見だし、『NEXT STAGE ～仲間を信じて 未来へはばたけ～』という生徒会スローガンを掲げた。この生徒会スローガンを踏まえ、少人数の良さや強みを生かしながら、生徒一人一人が主体となり、活気あふれる学校づくりのために何ができるかを考えた。

2 資料（実践事例、写真等）

（1）縦割団活動

各学年を二つの団に分け、3年生から各団のリーダーを決めて、学年を超えて体育祭や文化祭で競い合うことができる集団作りを行った。先輩後輩の垣根を越えて協力し合う姿が見られた。



（2）委員会活動

こちらも学年を超えた組織である。放送・集会委員会、給食・整備委員会、IBI・JRC委員会の三つの委員会がある。委員長を中心に、互いにフォローしあいながら、活動した。特に、生徒から声上がり組織された“いじめ”“ぼくめつ”“いいんかい”の頭文字を取った“IBI”の活動に力を入れている。



3 成果と課題（○成果、●課題）

○文化祭での一人一役や縦割団活動によって、普段話す機会がない他学年の生徒と話すようになり、廊下ですれ違う際に、先輩と後輩が言葉を交わす場面が増えた。横だけでなく縦のつながりを深めることができたと感じる。

○学級内で目立つ発言がなかった生徒が、文化祭でコーナー司会という表舞台に立ち、堂々と務めた。その後、授業内や部活動内において、発表する場面が増えた。多くの経験や関わりが、生徒にとって自信をもつことにつながったと考える。

●人数が少ない分、生徒一人一人の負担が大きい。生徒数減少に伴い、行事の規模を縮小する必要性も考えながら、充実した学校生活を送ることができるように支援していきたい。